

ギャラガー外務長官の訪日に寄せて

ギャラガー外務長官が、この1月28日から2月3日にかけて日本を訪問する。この機会に、バチカンと日本との関係を考えてみたい。

日本とカトリック教会との関係は、1549年イエズス会士フランシスコ・ザビエルが日本の南端にある当時の薩摩の国を訪れたことに始まる。それは、約470年前にあたり、長い交流の歴史がある。日本からは、1585年に天正遣欧少年使節、1615年に慶長遣欧使節がバチカンを訪ねて、当時のローマ法王に拝謁している。しかし、1614年、徳川幕府はキリスト教信仰を禁止し、布教は厳しい弾圧に遭い、その大半は、過酷なものであった。1644年以降、カトリックの司祭は一人もいない状況になったが、カトリック信徒は密かに信仰を続けた。彼らは「隠れキリシタン」と呼ばれている。信仰が厚かった信徒は、投獄や拷問による棄教を迫られた。この間の状況は、最近封切られたスコセッシ監督の映画「沈黙」から知ることが出来る。法王フランシスコは、2014年1月15日の一般謁見の中で、弾圧下での洗礼の重要性について、「日本のキリスト教共同体の歴史は、模範となる」と述べている。「日本のキリスト教共同体の歴史は、模範となる。17世紀始めに厳しい迫害を受け、数多くの殉教者を出し・・・キリスト教徒は隠れて信仰と祈りを守った。そして新しく生まれた子供に対しては、その父親又は母親が洗礼を行った。特別な状況があった場合には、全ての信徒は洗礼を行なうことができるからである。250年後、宣教師が戻ったとき、数千人のキリスト教徒が隠れキリシタンであることを公にして、教会は再び開花した。洗礼のお陰で、隠れキリシタンは孤立していたとしても、カトリック教会のメンバーとして生き延びた。我々は、この歴史から学びましょう。」。1868年、明治政府とともに鎖国が解かれ、1873年「キリシタン禁教令」が廃止され、信仰の自由が認められた。

日本とバチカンの新たな関係は、第2次世界大戦が勃発した翌年、大戦の最中1942年に再開され、外交関係が樹立された。この間の事情については、「昭和天皇独白録」に「開戦後法皇庁に初めて使節派遣した。之は私の発意である」と記されている。

このようにして始まった日本とバチカンの外交関係は、今年で75周年を迎える中、ギャラガー外務長官が訪日する。この機会に、現在の日本とバチカンの関係を見てみたい。筆者は、ビジネス界出身の大使である。バチカンとビジネス界との関係は、通常はないと考えられる。しかし、現在、日本のビジネスとの関係がある。まず、NTT データとキヤノンが、2014年からバチカン図書館所蔵の手書き文献約8万冊のデジタル化事業に参加していることが挙げられる。これら文書がデジタル化されれば、容易に貴重な資料へのアクセスができることになる。また、遡れば、システーナ礼拝堂のフレスコ画の修復は、日本の民間テレビ局である日本テレビの協力により、13年の年月をかけて行われ、1994年に完成した。さらに、2015年には、凸版印刷とバチカン図書館の共催により、東京で「バチカン教皇庁図書館展」が開かれている。なお、東京印刷博物館では、デジタル化されたシステーナ礼拝堂を見ることができる。意外ではあるが、このようにバチカンと日本のビジネス界の間には関係がある。また、学会でも、サレジオ会宣教

師マレガ神父が大分教会在任中収集したキリシタン資料約1万点について、日本の研究機関とバチカン図書館との間で共同研究がされている。

さらに、広げて考えると、法王フランシスコが、「Laudato Si'」で述べられている‘Economic and Social Inclusion’は、日本企業がこれまで注力してきた企業の社会的責任と軌を一にするものである。

今回のギャラガー外務長官の訪日は、日本のカトリック界にとっても意義のあるものと思われる。日本のカトリック人口は、約45万人で、人口比0.35%と少ない。しかし、日本には、カトリック系の大学、中高小の教育機関は286校あり、幼稚園は515園ある。そこでは、約22万人がカトリックの教育を受けている。さらに、2月7日には大阪で高山右近の列福式が行われ、アマート枢機卿が司式され、多くのカトリック信者が集う。

この1月20日には、米国第一主義を掲げるトランプ新米大統領が誕生した。昨年は、英国がEU離脱を決定し、またその後の動き等を見ても、一部のヨーロッパの国々で自国中心主義の台頭が見られる。しかしながら、世界平和の実現、格差と貧困の拡大、環境や難民問題、核軍縮・不拡散、テロなど世界各国が取り組まねばならない問題は多い。この中で、価値観を共有する日本とバチカンが、世界的課題に協力して取り組むことは、極めて重要である。この点でも、ギャラガー外務長官の訪日は大変意義のあるものである。

在バチカン日本国特命全権大使
中村 芳夫